

HEPHAIST®

それは価値を創造する個性ある集団です。

第50期 報告書

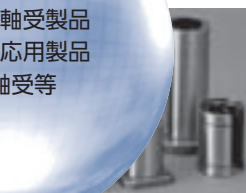
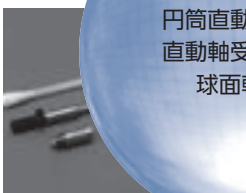
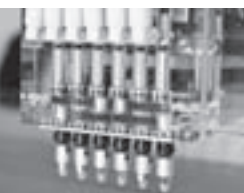
2011年4月1日~2012年3月31日



当社は、1962年(昭和37年)の創業以来、リニアモーションベアリングの専門メーカーとして、常に新しいテクノロジーを追求し、多様化するニーズに応えるべき技術力と創造力により高品質・高付加価値製品を提供してまいりました。これからも長年蓄積した固有技術を活かし、事業の柱となるリニアベアリングなどの直動機器事業、精密部品加工事業及びポジショニングステージなどのユニット製品事業の3つの事業領域で企業価値の拡大を目指してまいります。

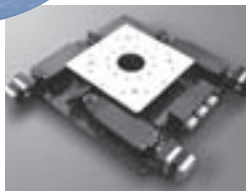
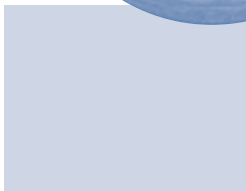
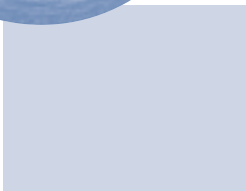
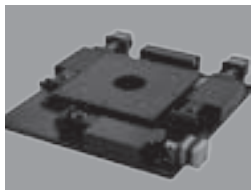
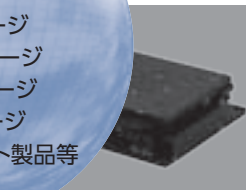
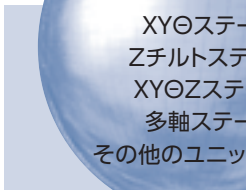
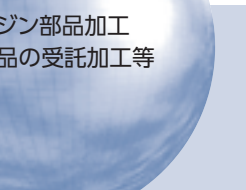
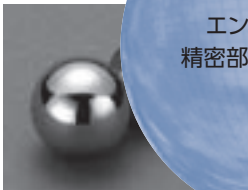
直動機器事業

円筒直動軸受製品
直動軸受応用製品
球面軸受等



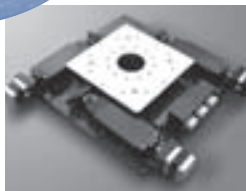
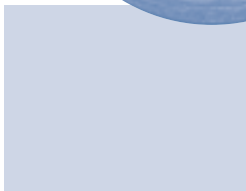
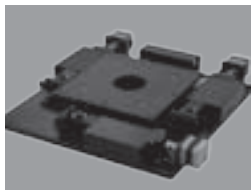
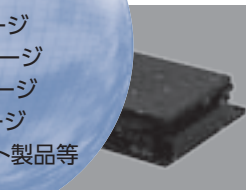
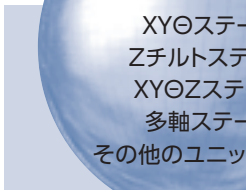
精密部品加工事業

エンジン部品加工
精密部品の受託加工等



ユニット製品事業

XYθステージ
Zチルトステージ
XYθZステージ
多軸ステージ
その他のユニット製品等



目次

事業概要	1	株式の状況	6
株主・投資家の皆様へ	2	会社の概要	6
財務情報	3	第50期定時株主総会に関するご報告	7
トピックス	5	株主メモ	7



株主・投資家の皆様へ

代表取締役社長 尾崎浩太

Message

株主・投資家の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。第50期報告書をお届けするにあたり、平素のご支援を深く感謝し、ご挨拶申し上げます。

当事業年度におけるわが国経済は、東日本大震災の影響が残る中、震災復興需要や自動車産業の復調による内需の回復と米国景気の復調などから、全体として緩やかな回復基調にありました。しかしながら、円高の定着による輸出企業への影響や、欧州債務危機の再燃懸念、新興国のインフレ圧力の高まりを背景とした国際経済の減速などのリスク要因は解消されず、依然として景気の先行きは不透明な状況が続いています。

このような経済環境の下で、当社は、主力製品の拡販について、営業・技術・製造の三位一体体制で取り組み、顧客の満足度向上を図り、品質向上・コスト削減・業績の回復に懸命に取り組んでいます。

これらの結果、当事業年度の業績は、売上高は1,491,385千円(前期比6.9%減)となりました。また、損益面では、顧客対応のための製品開発案件の前倒しの実行及び特殊製品対応の追加費用の発生などにより、経常利益は38,543千円(同46.9%減)、また、保険解約返戻金として特別利益を計上したことにより、当期純利益は131,034千円(同239.5%増)となりました。

主力製品の直動機器については、産業用機械業界などの受注が期の後半に減少し、売上高は1,206,666千円(同1.8%減)となりました。

精密部品加工については、レース用エンジン部品及び一般受託加工の受注減少により、売上高は144,683千円(同23.1%減)となりました。

ユニット製品については、電子部品業界及びスマートフォンなどの液晶製造装置の販売を進めるも目標に届かず、売上高は140,035千円(同24.2%減)となりました。

次期の見通しについては、欧州債務危機の再燃懸念、新興国のインフレ圧力の高まりを背景とした国際経済の減速などのリスク要因が解消されず、依然として不透明な状況にあります。また、円高の定着や電力供給の不安から生産の海外移転の流れが進み、国内の設備投資に関しては厳しい環境が予想されます。このような経済環境の下で、中国販売子会社の本格的な販売開始による販路拡大、さらに、スマートフォンやタブレット端末に向けた産業用機械及び電子部品業界への顧客ニーズに引き続き対応し、収益の確保を図ります。

当社は、主要市場である産業用機械、電子部品業界及び自動車関連業界を含めて、国内・海外における生産動向の影響を大きく受けています。

このような事業環境の中で、受注確保を第一の課題と認識し、顧客の満足度向上のため、営業・技術・製造の三位一体体制のさらなる強化による顧客対応力の向上、QCDの追求による製品力の向上、固定費・変動費の削減などを強力で推し進め、業績の早期回復及び経営基盤の強化に努めていきます。

重点方針は以下のとおりです。

- ①生産性向上による生産能力増強とコストダウン
- ②QCDの徹底追求による顧客対応力の強化
- ③海外販売展開の構築・強化
- ④提案型営業による顧客ニーズに適合した新製品の開発

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして認識しており、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、配当を行うことを基本方針としています。

しかしながら、当事業年度の配当金については、保険解約返戻金として特別利益の計上があったことで当期純利益は増益となったものの、売上は減収、経常利益は減益であり、また、経済環境の先行き不透明感も残っているため、誠に遺憾ながら、期末配当を無配とさせていただきます。

また、2013年3月期においては、内部留保資金の使途として、中国販売子会社の展開及び将来における当社の事業環境の発展への投資を図ることが最優先と考えております。そのため、現時点では、配当金は未定としています。

株主の皆様への利益還元ができるよう全力で利益の獲得に取り組み、次期以降の業績と財政状態を勘案し、配当予想が可能となった段階で、速やかに公表します。

株主・投資家の皆様には、一層のご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

2012年6月

代表取締役社長 尾崎浩太

貸借対照表

単位:千円

科目	50期 平成24年3月31日	49期 平成23年3月31日
資産の部		
流動資産 ①	2,058,104	1,825,388
現金及び預金	749,628	684,283
受取手形及び売掛金	509,038	657,696
製品	148,811	23,975
仕掛品	330,769	248,719
原材料	280,417	168,881
繰延税金資産	15,834	16,101
その他	23,604	27,010
貸倒引当金	—	△1,279
固定資産 ②	2,111,131	2,210,411
有形固定資産	2,050,832	2,069,886
建物及び構築物	807,186	859,304
機械装置及び車両運搬具	147,980	118,425
工具、器具及び備品	23,678	28,652
土地及び建設仮勘定	1,071,986	1,063,504
無形固定資産	3,478	1,683
投資その他の資産	56,820	138,842
投資有価証券	1,824	3,334
繰延税金資産	22,567	111,772
その他	32,428	28,848
貸倒引当金	—	△5,112
資産合計	4,169,235	4,035,800

科目	50期 平成24年3月31日	49期 平成23年3月31日
負債の部		
流動負債 ③	660,380	561,080
支払手形及び買掛金	340,059	333,693
1年以内返済予定長期借入金	204,876	142,886
未払法人税等	19,000	6,500
その他	96,444	78,001
固定負債 ④	479,903	577,194
長期借入金	374,296	279,172
退職給付引当金	49,849	43,709
役員退職慰労引当金	53,721	253,928
長期リース資産減損勘定	—	384
その他	2,036	—
負債合計	1,140,284	1,138,275
純資産の部		
株主資本	3,028,868	2,897,941
資本金	717,495	717,495
資本剰余金	664,455	664,455
利益剰余金	1,647,090	1,516,056
自己株式	△172	△64
評価・換算差額等	82	△416
その他有価証券評価差額金	82	△416
純資産合計	3,028,951	2,897,525
負債純資産合計	4,169,235	4,035,800

貸借対照表のポイント

①流動資産

たな卸資産は、品揃えによる納期対応をするため増加しております。

②固定資産

投資その他の資産は、繰延税金資産が減少しております。

③流動負債

1年以内返済予定長期借入金は銀行より資金調達をしております。

④固定負債

役員退職慰労引当金は退職金の支払いにより減少しております。

損益計算書

単位:千円

科目	50期	49期
	平成23年4月1日から平成24年3月31日まで	平成22年4月1日から平成23年3月31日まで
売上高	1,491,385	1,601,353
売上原価	1,026,350	1,081,799
売上総利益	465,034	519,553
販売費及び一般管理費	430,795	448,502
営業利益	34,239	71,051
営業外収益	9,650	9,812
営業外費用	5,345	8,247
経常利益	38,543	72,615
特別利益	200,590	4,759
特別損失	3,256	2,494
税引前当期純利益	235,877	74,879
法人税、住民税及び事業税	15,712	1,848
法人税等調整額	89,130	34,434
当期純利益	131,034	38,596

キャッシュ・フロー計算書

単位:千円

科目	50期	49期
	（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）	（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）
営業活動によるキャッシュ・フロー①	△28,435	195,801
投資活動によるキャッシュ・フロー②	73,102	△3,729
財務活動によるキャッシュ・フロー③	156,910	△187,026
現金及び現金同等物の増減額	201,577	5,045
現金及び現金同等物の期首残高	428,050	423,005
現金及び現金同等物の期末残高	629,628	428,050

損益計算書のポイント

特別利益は、保険解約返戻金により増加しております。

キャッシュ・フロー計算書のポイント

- ① たな卸資産の増加により資金が減少しております。
- ② 定期預金払戻により資金が増加しております。
- ③ 長期借入金により資金が増加しております。

株主資本等変動計算書のポイント

純資産の増加は、利益剰余金の増加によるものです。

株主資本等変動計算書

単位:千円

科目	50期	49期
	平成23年4月1日から平成24年3月31日まで	平成22年4月1日から平成23年3月31日まで
株主資本		
資本金		
当期首残高	717,495	717,495
当期変動額合計	—	—
当期末残高	717,495	717,495
資本剰余金		
当期首残高	664,455	664,455
当期変動額合計	—	—
当期末残高	664,455	664,455
利益剰余金		
当期首残高	1,516,056	1,477,459
当期変動額合計	131,034	38,596
当期末残高	1,647,090	1,516,056
自己株式		
当期首残高	△64	—
当期変動額合計	△107	△64
当期末残高	△172	△64
株主資本合計		
当期首残高	2,897,941	2,859,409
当期変動額合計	130,926	38,532
当期末残高	3,028,868	2,897,941
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	△416	882
当期変動額合計	499	△1,298
当期末残高	82	△416
評価・換算差額等合計		
当期首残高	△416	882
当期変動額合計	499	△1,298
当期末残高	82	△416
純資産合計		
当期首残高	2,897,525	2,860,291
当期変動額合計	131,426	37,233
当期末残高	3,028,951	2,897,525

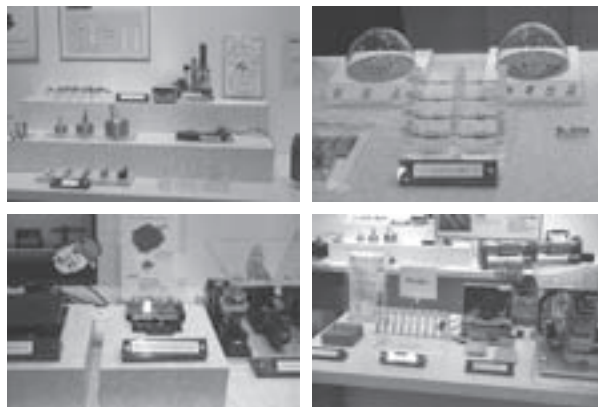
「第41回 インターネプコン ジャパン」に出展

開催期間である2012年1月18～20日の総来場者数は約39,000人と前年を下回りましたが、弊社ブースには前年を超える多数の皆様にお立ち寄りいただきました。

<今回の出展におけるポイント>

- 出展内容
1. ワンサイズダウンの小径リニアブッシュSSB（スーパースリムブッシュ）の発表
 2. ブッシュの取付及び固定を簡単にするアクセサリの紹介
 3. リニアブッシュを用いた簡易アライメント用小径ステージの紹介
 4. さらなる小型化とメンテナンス性を向上させたカートリッジ式小型多軸ヘッド(省スペース型スプラインユニットを搭載)

※上記単体展示の他に、各展示品を用いた動態展示も行いました。



ミニチュアボールねじスプライン (BSSP) が受賞

大田区産業振興協会主催の「第23回 大田区中小企業 新製品・新技術コンクール」にて、ケーエスエス株式会社とのコラボ開発製品「ミニチュアボールねじスプライン(BSSP)」が、優秀賞に選ばれました。



新製品

SSB (Super Slim Bush)

特長

軸径(軸剛性)は変更せずに、外径のワンサイズダウンが可能
重量ダウンによりイナーシャ(慣性)を軽減
ステンレス仕様による優れた耐食性



50th 株式の状況

Stock Information

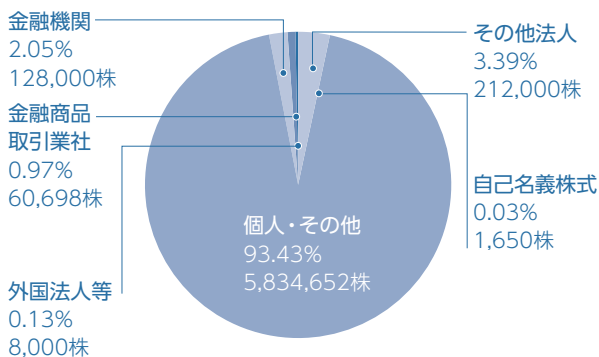
株式の状況 (2012年3月31日現在)

- 会社が発行する株式の総数…………… 18,720,000株
- 発行済株式の総数…………… 6,245,000株

大株主 (2012年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
尾崎 久壽彌	1,429	22.88
尾崎 浩太	810	12.98
尾崎 文彦	708	11.34
小泉 秀樹	178	2.85
大塚 勝洋	130	2.08
日本生命保険相互会社	100	1.60
大塚 徳子	80	1.28
夏 恒	80	1.28
西村 平	61	0.97
(株)ヴィーナズファンドマネジメント	60	0.96
ヒーハイト精工社員持株会	51	0.81
THK株式会社	50	0.80

所有者別株式数 (2012年3月31日現在)



50th 会社の概要

Corporate Data

会社の概要 (2012年3月31日現在)

- 社名 ヒーハイト精工株式会社
- 本社 〒350-1151
埼玉県川越市今福580番地1
- 埼玉工場 〒350-1151
埼玉県川越市今福580番地1
[敷地面積16,677m² 建物面積7,589m²]
TEL 049-273-7000 (代表)
FAX 049-273-7001
- 秋田工場 〒010-1653
秋田県秋田市豊岩小山字下田454番地
(豊岩工業団地内)
[敷地面積36,292m² 建物面積4,525m²]
TEL 018-828-0111
FAX 018-828-2231
- 海外 赫菲(上海)軸承商貿有限公司 〒200051
中華人民共和国上海市長寧区中山西路555号
緑洲大廈1幢813室
- 設立 昭和37年7月19日
- 資本金 717,495,000円
- 従業員数 69人(平均臨時雇用者数24人)

役員 (2012年6月27日現在)

代表取締役社長	尾崎 浩太
専務取締役	尾崎 文彦
取締役	福留 弘人
常勤監査役	村田 伊織
監査役	小川 好文
監査役	上條 弘

執行役員 (2012年6月27日現在)

	菜花 有三
	佐々木宏行

第50期定時株主総会に関するご報告

平成24年6月27日開催の第50期定時株主総会における報告及び決議内容は、下記のとおりです。

記

報告事項

第50期(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)事業報告及び計算書類報告の件

本件は、上記の内容を報告いたしました。

決議事項

第1号議案 取締役3名選任の件

本件は、原案どおり取締役に尾崎浩太、尾崎文彦、福留弘人の各氏が選任され、それぞれ就任いたしました。

第2号議案 監査役1名選任の件

本件は、原案どおり監査役に上條弘氏が選任され、就任いたしました。

第3号議案 退任取締役に対し退職慰労金贈呈の件

本件は、原案どおり退任取締役柴田幸子氏に対し、当社における一定の基準に従い相当額の範囲内で退職慰労金を贈呈することとし、その具体的金額、贈呈の時期、方法等は、取締役会に一任することに承認可決されました。

以上

株主メモ

- 事業年度 4月1日～翌年3月31日
- 期末配当金受領株主確定日 3月31日
(中間配当を行う場合、毎年9月30日)
- 定時株主総会 毎年6月
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
- 同連絡先 0120-232-711 (フリーダイヤル)
大阪証券取引所(JASDAQスタンダード市場)
電子公告の方法により行う。
- 電話 電子公告の方法により行う。
<http://www.hephaist.co.jp>
- 上場証券取引所 大阪証券取引所(JASDAQスタンダード市場)
- 公告の方法 電子公告の方法により行う。
- 公告掲載URL <http://www.hephaist.co.jp>
(ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きに関しましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

*本誌には、ヒーハイト精工の将来に関連する記述があります。この前提及び将来予測の記述には、経営を取り巻く環境の変化などによる一定のリスクと不確実性が含まれていることにご留意ください。

ヒーハイト精工株式会社

JASDAQ

証券コード6433

7

UD
FONT